

# 船井情報科学振興財団 第4回報告書

安室 美陽

2025年12月

Georgia Institute of Technology の Biology PhD 課程に在籍中の安室美陽です。アトランタ生活2年目の冬を迎えたが、この時期の急激な温度変化にはまだ対応できていません。本報告書では、秋学期の様子を振り返りたいと思います。

## 1. 授業

秋学期は実践的な授業を履修しようと思い、Programming Bioinformatics と Scientific Writing を選択しました。Programming Bioinformatics はバイオインフォマティクス専攻の学生を対象とした授業であったため、プログラミング未経験の私には少しハードルの高い内容でした。序盤は未経験者向けの基本的な事項を扱っていましたが、終盤の課題は非常に実践的で難易度も高めでした。たまたま TA が同じ研究室の人だったこともあり、その人や友人に手助けしてもらいつながら課題に取り組みました。この講義で学んだことを活かして、今後はある程度のコンピュータ解析を自分で行えるようになることが目標です。

Scientific Writing では、アカデミックライティングについて学びつつ、実際に論文形式の文章を書き上げました。講義ではライティングのみならず、プレゼンテーションや査読など、さまざまな関連トピックについて考える時間が設けられており、今後プロポーザルや論文を書く際に役に立ちそうです。

上記の授業に加え、留学生向けに開講されている Oral Communication という講義も履修しました。この授業では、他の学生と様々なテーマについて雑談したり、アメリカで用いられている英語のスラングを学んだりしました。履修者は私を除き全員が中国人または韓国人だったため、日本人がマイノリティであることを実感しましたが、アメリカにいるとアジア人同士の間に自然と仲間意識が生まれます。中には、英語が流暢でなくとも、自分が使える表現を用いて積極的に発言している学生もいました。こうした、ミスを恐れずに会話を楽しむ姿勢は、今の私が見習うべきものだと思います。授業自体が英語力の向上に役立ったかどうかは分かりませんが、他の学生から自分に足りないものを学ぶことはできた気がします。

本報告書を執筆している時点ではまだ分かっていませんが、今学期に履修した授業の単位が無事取得できていれば、コースワークの要件は満たしたことになります。やっと授業や課題から解放されたと思うと嬉しい気持ちと、博士課程の序盤がすでに終了したという焦りが半々です。

## 2. 研究

今学期は、研究室にローテーションで加わった修士課程の学生のメンターを務めました。メンターをするのは初めての経験だったため、手順などを上手く伝えられるか不安でした。しかし、その子が私の説明を理解しようと努力してくれたおかげで、心配する必要はありませんでした。分子生物学的実験の経験がほ

とんどないということで、マイクロピペットの使い方など基礎的なことから教え始めたのですが、自分にとつて当たり前になっていることほど、初めての人に教えるのは難しいということを実感しました。また、私自身が学部時代に研究室に所属したばかりの頃を思い出し、当時ゼロから実験を教えてくださった先輩方のありがたさが身に染みて分かりました。彼女が研究室に滞在していたのは数ヶ月ほどでしたが、短い期間ながらも人に教えるという良い経験を積むことができました。研究室を離れる際には、メッセージカードとギフトカード、お菓子をプレゼントしてくれました(写真1)。良いメンターになっていたかどうかは分かりませんが、少なくとも良い関係性を築けたことは嬉しく思います。

私自身の研究についてですが、去年の冬頃から苦戦していた実験に対して、ようやく解決の糸口が見え始めました。その結果、長い間後回しにしていた実験にやっと着手することができました。さらに11月末に授業が終わってからは、実験に思う存分時間を使えるようになりました。毎日ひたすら同じ作業の繰り返しで、実験が上手くいかないこともありますが、面白い結果を期待しつつ、手を動かし続けたいと思います。

最近は、マイクロチューブの開け閉めによる親指の痛みや、ピペット作業による肩凝りの悪化に悩まされています。授業のための移動が意外と良い運動になっていたようですが、授業がなくなってからは日中にほとんど動かなくなってしまったため、今後はせめてストレッチを習慣化させることが目標です。

### 3. 生活

#### 健康第一だと改めて思った話

先日、近年で1番酷い風邪を引きました(検査していませんが、インフルエンザかコロナだった可能性が高いです)。3日間ほど発熱し、ベッドから起き上がれないほどの頭痛に見舞われました。ちょうどルームメイトたちが帰省するタイミングでしたが、出発前に大量のハーブティーや薬などを置いていってくれました。ちなみに、貰った薬は Alka-Seltzer という商品で、タブレット状の薬をコップ1杯の水で溶かして服用します。「溶かすと甘い炭酸ジュースみたいで美味しい」という触れ込みでしたが、これがとんでもなく不味いです。以前に試して懲りていたため、今回は気持ちだけ受け取って、日本の解熱鎮痛剤で対処しました。アメリカの薬局では処方箋なしで様々な薬が手に入りますが、自分に合う薬を探すのは難しいと感じ、やはり慣れた日本の薬に安心感を覚えます。

寝込んでいる間、改めて身体が資本であることを痛感したため、生活習慣を見直し、健康最優先の生活を送りたいと思いました。「ホットランナ」とも呼ばれるほど温暖なアトランタですが、冬はかなり冷え込むため、寒さに負けず実験をもりもり頑張るためにも、体調管理を万全にしていきたいです。

#### 休日の過ごし方

振り返ってみると、今学期はかなり充実した休日を過ごすことができたと思います。9月には、大学近くの Fox シアターという劇場で『バック・トゥ・ザ・フューチャー』のミュージカルを鑑賞しました。ミュージカル自体も非常に面白かったのですが、ニューヨークのブロードウェイに劣らないほど劇場の雰囲気がとても良く、

今後も定期的に足を運びたいと思いました(写真 2)。

10月には、友人に誘われて日本人歌手のライブに行きました。普段、アトランタで日本人を見かけることは少ないので、ライブには大勢の日本人ファンが来場していて驚きました。一体どこからやつて来たのでしょうか。

11月頭には、研究室の友人とハイキング(と言っても湖の周りの平坦なコース)に行きました。本格的に寒くなる前に、綺麗な紅葉の景色を楽しむことができました(写真 3)。また、アトランタ在住 2年目にしてようやく「ワールド・オブ・コカコーラ」に行ってきました。コカコーラ発祥の地であるアトランタの観光名所で、世界中のコカコーラ製品が試飲できることで有名です(写真 4)。炭酸飲料をあまり好まない私の期待値は低めでしたが、展示物や試飲以外の体験コーナーなどにも力が入っており、思ったより楽しむことができました。奇妙な味の炭酸飲料に挑戦してみたい方は、アトランタに訪れた際にぜひ行ってみてください。イタリアの Beverly や中国のファンタ(サワープラム)などが特に不味くておすすめです。

さらに、サンクスギビングの休みを利用して、フロリダのパナマシティビーチへ 1泊 2日の小旅行へ行きました。のんびりロードトリップで半日ほどかけて向かいました(運転してくれた友人たちに感謝です)。夏は非常に混雑するというビーチですが、時期をずらしたためか人はまばらでした。海に入るには寒すぎましたが、真っ白な砂浜と海の絶景をゆっくりと堪能することができました。特に、夕暮れの陽が透き通った青い海に溶け込んでいく様子は、形容し難いほど綺麗でした(写真 5)。ひんやりとしたサラサラの砂浜に足を埋めながら景色を眺めている間は、現実を忘れることができました。道中はひたすら殺風景な景色が続いていましたが、アメリカの田舎道を通るのは初めてだったため、それも新鮮な経験でした。

休日の楽しみは気分転換になるだけでなく、カレンダーに楽しみな予定が入っていると、PhD 生活の活力になります。今月下旬にはフロリダのユニバーサル・オーランド・リゾートに行く予定があるため、現在はそれをモチベーションにしています。今後も適度な息抜きを大事にして、日頃の実験を頑張りたいです。

#### 4. 最後に

報告書を書くたびに、時の流れの早さに驚かされているような気がします。上で述べたように、コースワークが終わり、いよいよ研究に本腰を入れる時期になりました。実験が失敗続きだったり、時間を費やしてもかかわらず結果が芳しくなかったりして、気分が落ち込むこともあります、こうしたことは博士課程では当たり前のことだと思います。結果は後からついてくると信じ、焦らず辛抱強く研究に取り組みたいと思います。繰り返しになりますが、留学をご支援してくださっている船井情報科学振興財団の皆様に、心よりお礼申し上げます。



写真 1. ギフトカードとお菓子



写真 5. 夕暮れのパナマシティビーチ



写真 2. Fox シアターの看板



写真 3. ハイキング



写真 4. 試飲コーナー